

集有茲此德
犧神諸而如
幹表后河風
之淵仰觀物
期間叢清應
匯拜四風如
朝考德茲響

図① 潘存の高貞碑臨書（部分）

図② 高貞碑旧拓整本

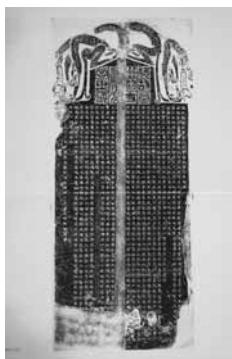
魏故驪驪將軍
高使君懿侯碑
字羽真勃海脩



図③ 高貞碑・高慶碑



図④ 高貞碑（断裂後拓本）



図⑤「於王」二字（旧拓本）



図⑥「於王」二字（近拓本）



「落ち穂拾い記」⑥六朝名碑・『高貞碑』

北魏時代を中心とする六朝碑刻の楷書が、日本で学ばれ出したのは明治の始めに楊守敬が来日してからであろう。清末の金石学者でもあり、書をよくした楊守敬と当時の書壇の日下部鳴鶴等との交流により、六朝楷書の学習が次第に盛んになった。北魏時代の碑刻では、龍門造像記が広く知られているが、高貞碑は北魏の正光4年(523)に建てられた碑であり、清朝の後期に出土した。文字の構成が重厚で、起筆が力強く、やや右上がりの横画は伸びやかで、時には直線に少しがら湾曲するような趣を示す所も見られる。左右の払いも筆運びが丁寧であり、強い。初唐の三大家の様な洗練された文字構成や点画でないが、実際に重厚な切れ味の筆勢を示している。楊守敬の師である潘存の高貞碑の臨書が知られる。非常に伸びやかで力強い作であり、高貞碑臨書の佳なるものであろう(図①)。その影響であろうか、戦前から多くの人々に好まれ数多くの拓本が流布している。戦後生まれの小生も大学の楷書学習の授業などで、高貞碑が

取り上げられ、臨書に取り組んだことを今も鮮明に覚えている。早くに高貞碑の原刻拓本を数件手にしてきたが、旧拓と称されるやや質のいい拓を手にしたのは、40代であろうか。未装の整拓本であり、嬉しくて自ら丁寧に裏打ちし、現在も大事にしている(図②)。この碑は、現在は山東石刻芸術博物館にある。以前に原碑を見たときは、博物館の外に同時代の高慶碑と背を合わせて安置されていた(図③)。新中国成立後、混乱の時期に石碑が一つに裂かれ、破損した。新拓本から多くの碑文が失われたことを見ることが出来る(図④)。旧拓は、八行目の下から五、六字目の「於王」の二字がほぼ確認できる(図⑤)。図②で示した整拓本は、下の「王」の第一画の上部のみが損しているが、その後は大きく破損し、更に「王」字が見えなくなる(図⑥)。右の主図版は、図②の整拓本の中央の下部をそのまま原寸で示した。(★印を付し、反転して示した)。

書のひろば

理事長 下谷洋子

(公財)書道芸術院 令和7年度第1回理事会 第192回理事会開催

(公財)書道芸術院 令和7年度第1回理事会

5月11日事務所にて、令和7年度の第1回通常理事会が開かれました。午前中には監事による令和6年度の収支決算の監査が行われました。

1) 令和6年度公益財団法人書道芸術院事業報告の承認について

2) 令和6年度公益財団法人書道芸術院収支決算の承認について監査報告

3) 定時評議員会の招集の決定について

4) 畠議事項

5) 令和7年度書道芸術院展関係人事について 特別推薦・退会者・逝去者報告事項

6) 令和7年度秋季展選考委員について

7) 書道芸術院前衛書展について

8) 代表理事、業務執行理事の職務の執行状況の報告

理事会終了後、現在本院が抱えているさまざまな問題について、理事監事によるフリートークを行いました。会員の減少や地域差など、問題は山積みではありますが、今後の展覧会事業への展望や各地域の現況と忌憚なく意見

が出て、本院の歴史の重みの中でも、これからどの方向に舵を切るのか、執行部の参考にさせて頂きたいと思います。

第76回毎日書道展がスタート

今回展の作品受け付け、搬入が5月12～14日、竹橋の毎日ホールで始まりました。

5月23～25日には鑑別審査が行われ、文部科学大臣賞選考が7月2、3日にあります。7月20日にはザ・プリンスパークタワー東京で表彰式の予定です。

入賞審査は6月27～29日、会員賞、文部科学大臣賞選考が7月2、3日にあります。7月20日にはザ・プリンスパークタワー東京で表彰式の予定です。

日本ユネスコ登録推進協議会の活動状況について

1. 書写・書道教育推進協議会ならびに日本ユネスコ登録推進協議会の活動状況について

2. 令和6年度助けあい募金の報告

3. 今理事会ならびに令和7年度総会(6月5日)での審議事項について

議決事項

・ 令和6年度事業報告ならびに決算の承認

・ 任期満了に伴う役員(理事・監事)改選について

4. 令和7年度総会の開催、進行について

5. 令和7年度書道教育講演会について(6月5日総会終了後)

6. 令和7年度夏期書道大学講座について(8月1～3日開催予定)

7. 第76回毎日書道展の件の決算の件

8. 第76回毎日書道展の件の日程他

9. 開催予定(東京展は除く)

10. 関西展 8月13～17日

11. 京都市京セラ美術館

12. みやこめつせ第2展示場

13. 日岡デザイン博物館

14. 東海展

15. 愛知県美術館ギャラリー

中国展	8月19～24日	漢I	漢II	かI	かII	近詩	大字	篆刻	刻字	前衛	計	広島県立美術館
公募	2,664	4,228	971	1,058	3,652	1,255	175	457	715	15,175	四国展 8月20～24日	
会友	1,341	926	206	655	1,321	395	60	39	256	5,199	愛媛県美術館 9月19～24日	
U23	336	533	97	111	491	190	44	28	44	1,874	仙台メディアテーク 9月24～28日	
小計	4,341	5,687	1,274	1,824	5,464	1,840	279	524	1,015	22,248	北海道展 9月15～19日	
76回展計	10,028		3,098	5,464	1,840	279	524	1,015	22,248	東北展 10月15～19日		
75回展	10,265		3,228	5,700	1,908	299	555	1,086	23,041	九州展 10月28日～11月2日		

第76回毎日書道出品状況

2025.5.27現在

院(全)	357	246	398	164	1	16	324	1,506
75回展	357	233	387	171	0	24	337	1,509

5. その他
3. 「2026新春展」の件
4. 「第34回国際高校生選抜書展」の件

5. その他
3. 「2026新春展」の件
4. 「第34回国際高校生選抜書展」の件

漢字書基礎基本講座(13)

種谷萬城

上野本十七帖

冒頭部分



三井本十七帖

冒頭部分



上野本十七帖『粗足作佳觀』
『粗足作佳觀』

粗
し
化
は
観

上野本十七帖の臨書
『粗足作佳觀』

上野本十七帖の倣書
『草書之規範』

草
書
之
規
範

草書1
十七帖

草書は、隸書を速書に適するよう簡略化して生まれた。現代生活で草書を見かける機会は少ないが、歴史的には、実用書体として、長年用いられ、優れた名筆が多く残る。草書は行書以上に躍動感や速度感に溢れた表現が可能。

字形の拘束もなく、長短、太細、曲直の表現が自在。十七帖は、学書の手本として、唐・太宗が蒐集した3000紙ものぼる王羲之の書状から、29通を精選して石に刻したもの。第一通の書き出しが「十七日先書」とあり、この名がある。後世、草書の規範とされ、多くの刻本が伝来する。著名なものには、

適勁な『三井本』、穏和な『上野本』などがあり、草書を学ぶ上で基本的な古典とされている。東晉時代に出現し、草書の芸術的価値と書法の典型を確立した王羲之の十七帖を臨書・倣書し、規範的な草書の美を学びたい。

※ユーチュープ『筆のサロン』に臨書と倣書の関連動画を配信しました。是非参考にして下さい。QRコードでアクセスできます。



筆のサロン
QRコード

篆刻・刻字基礎基本講座(13)

後藤大峰

前回まで篆刻について、作品の創り方、用具、用材等について、お話をさせて頂きました。今回より刻字についての基礎、基本的なことにつきまして話を進めていきたいと思います。

刻字作品を創る時、最初に、行わなくてはならないことは、「書稿」を創ることです。

ご存じのように刻字作品とは、木材の「板」に文字を彫り込んで彩色をして作品を完成させます。その元となる「書稿」、所謂、原稿を用紙に筆で、これから彫り上げる文字を書きます。書体は任意です。漢字、かな、現代詩。漢字も、所謂、「五体」どれも、任意です。

「書稿」を書きましたら、実際に彫る線を正確に出すために、筆で書いた線の中の滲みや、かすれを整理します。筆線を外郭線で整理し、所謂「刻線」を、これで決めます。この作業を「かご字を取る」と言います。



書稿(無)の籠字



書稿 釈文(無)



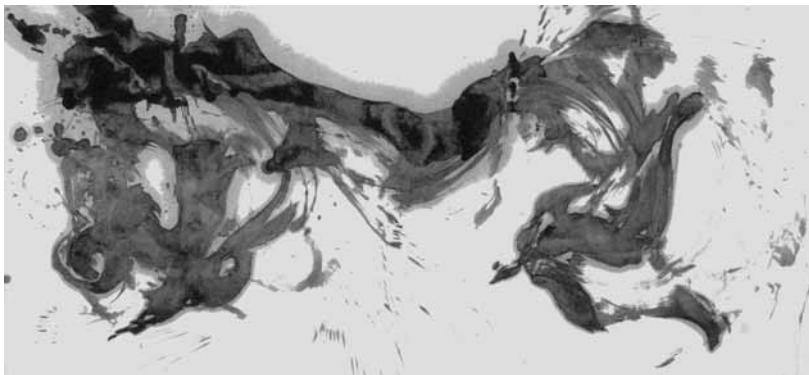
書稿(無)の籠字

次回からは、実際に使用する用具等についてお話を進めて行きたいと思います。

その後は、彫刻刀やノミを使って彫っていきます。これが刻字作品を創る大まかな手順になります。

書道芸術院

令和の群像 (2025)



第75回毎日書道展 会員賞「波折り」

一條 紅 蕭 書

「導かれて」



一條 紅 蕭 (宮城)

土曜日はお習字の日。重い鞄を下げ書道教室へと走る。朱い丸が欲しくて、「良く書けたね」の一言が嬉しくて、筆を執った幼い頃を思い出す。大人と一緒に学ぶ教室では礼儀作法など真似をしながら自然と身についたように思える。高校で、後の師となる太田蓮紅先生と出会い授業と部活で臨書の他にも創作、刻字、拓本の採り方など幅広い書の世界を教えて頂いた。先生が折りにふれ話してくれる、研修で訪れた中国の話に私は興味津々だった。進学のため、上京することになった時、先生が私の母に「東京に行つても書道を続けられるように協力して下さい」と口添えしてくれた。そして紹介状を持たされ、東京での師となる村野大仙先生の元へと送り出してくれた。

村野先生からは基礎となる古典臨書の指導を受けた。「雁塔聖教序」の臨書をしている時に先生が原拓を広げて見せてくれた、その柔剛な曲直の線、雄大で格調高い美しさに私は心を奪われた。

大学4年生の時、先生から毎日書道展への出品を勧められたが、大事を持ち合わせていない私に、中島邑水から譲り受け大切にしていく筆を貸してくれた。その時の作が毎日書道展への初出品、初入選であり、前衛書の世界への第一歩となつた。卒業後は地元に戻り高校でお世話をになつた太

田先生に師事し、公募展にも出品するようになつた。試行錯誤で自信がない私は、鑑別時には心の内を見透かされているようを感じ、言い訳ばかりだった。それでも根気強く次の作品に繋がるアドバイスをしてくれた。数年前になるが鑑別の時に「やっとあなたの作品を安心して見られるようになった」と先生が呟いた。もの凄く嬉しかった。そして同時に、私は先生の前では永遠の女子高生なのだと思った瞬間でもあつた。公募展では何度も落選して心が折れそうになつたり、生活の変化で書道から離れそうになつたりしたこともあつたが、その都度一緒に考え細やかな心遣いで導いてくれた師と、そして支えてくれた仲間の存在は大きかった。

社中の仲間と行った中国書道研修の旅、憧れの景色と雁塔聖教序の石碑を見ることができた。書道を続けていなければできなかつた体験と仲間との出会いは私の人生を豊かなものにしてくれたと思う。

この作品は第75回毎日書道展で会員賞を頂いた作。第55回展で太田先生が会員賞を受賞した時、会場に居た私に「あなたも、あの壇上で受賞できるようになりなさい」と掛けて下さった言葉が言靈となつた。

同じ会場で開催された「墨魂の群像」で東京の師、村野先生の墨色の美しい作品の前に立つた時、いつも愛おしそうに墨を擦りながら迎えてくれた先生の姿が目に浮かんだ。「経験には苦しみが伴う。その苦しみこそが作品を創る」これからも師の言葉を胸に自己を表現する書を求める想いを続けたいと思う。

新銳礼讃

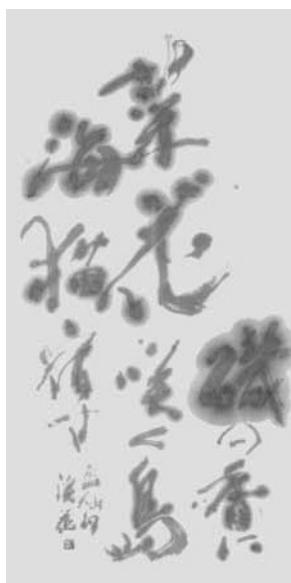
現代詩文書部
審査会員

吉田溪花（青森県）



所属 白扇書道会（八戸）
墨縁書道会
師名 田中扇溪

毎日書道展・白扇書道会展
八戸市美術展・墨縁書道展



「工藤峦仙の句」



「鳩（はと）」

漢字部 審査会員候補

湯原希風（奈良県）



所属 玄遠社・春洋会
師名 小林琴水
崎井恵風
参加している書展
毎日展・姿全国書展・
長野県現代書藝全展

磯の香に菜花咲く島海猫宿す

作品自評

今回「新銳礼讃」への原稿依頼をいた

だき、どんな作品を提出しようかと悩みましたが、私が生まれ育ち、今も住んでいる奈良県斑鳩町の「鳩」の字を選びました。平和の象徴である「鳩」の優しさを表現できたらと思いました。

毎日展では大字書部に属していて、一字書の文字構成や、表現法などを学んでいますが、なかなか思うようには書けません。筆は長鋒筆、墨は和墨と唐墨を混ぜ合わせて、その調合の具合で墨色やにじみが変化します。今回の作品はうまくにじみも出て、助けてくれました。

大字書に通ずるものがあると2年ほど前から篆刻・前衛書も始めました。漢字

や大字書の表現に生かせねばと願っています。

書活動における課題

苦手な臨書を仕事や育児のせいにして勉強してこなかった。真剣に向き合わず放置してきた結果、去年初めて参加した単位認定講習会で全く書けないことを痛感し、作品を作るためにも真摯に向き合いたい。

今、伝えたいこと

大学時代に書道をはじめて、いつも母のように暖かく、私のペースに合わせてご指導いただいている崎井恵風先生に感謝を申し上げます。結婚・出産を経ても書道を続けてこられたのは先生や仲間、家族のおかげです。

作品自評

作品制作する時いつも念頭に置くのは詩文に感情を込め、情景を思い浮かべながら作品と向き合うということです。

今回は義祖父の自然風景を詠んだ句を題材に選びました。八戸・燕島の春の景色と海猫の産卵の生命力を淡墨で表現してみました。滲みによって生み出される余韻と潤滑の変化とともに、筆の妙味を感じられる作品を目指しましたが、墨と紙の相性や美しい墨色を出すことの難しさを痛感しています。

書活動における課題

現在は仕事や育児で余裕がなく、書に全力で励むことができません。表現の幅を広げるためにも、基本である古典

の臨書に向き合い、多くの芸術作品に触れる機会を作り、学びを深めていきたいです。
昨年末、地元での勉強会や書道展で励まし支え合いながら歩んできた、前衛書部の同じ年の書友の急逝を受け、大きな喪失感に襲われました。当たり前の日常がいかに幸せで大切なことなのかを気づかせてもらいました。これからは、自分なりに書の魅力や楽しさを多くの方に伝えられるように精進してまいります。

今、伝えたいこと

昨年末、地元での勉強会や書道展で励まし支え合いながら歩んできた、前衛書

特別研究部臨書課題

II (半紙普通判・縦使用) 左記掲載部分より何文字臨書してもよい。

(A) 大作の部 每段書き貰・金具サイズ以内、2×6尺(全紙も可)
(B) 小品の部 半切以上半切以内・金具以外も可(A・B縦横自由)

真草千字文③ (智永)

※落款を必ず入れる。署名、もしくは〇〇臨(押印のみ也可)

当該古典の左記掲載部分以外も可。

〈解説〉智永の草書の書き方について上田桑鳩は、以下の点を指摘している(創元社『書道入門・臨書篇』)。

- 筆先を紙に突込むように入れ、ねじこんだり、はじいたりして書く。
- 線は太めにし、弾力をよくきかす。
- 形は右肩上がりにし、左下へ向かった縦や斜めの線を強く突張って、全体の重みを支える。「左記B」
- 筆勢は外側へ張るようにし、形に力を与える。「左記A」

(編集部)

[A]



菱形や斜線は動的な感じを与える。

[B]



円い字は筆を外側に押し出すようにして字の勢いを外側に張るようにする。

孔 懷 兄 弟 同 氣 連 枝
 孔 懷 兄 弟 同 氣 連 枝
 文 友 投 分 切 磨 藏 穀
 文 友 投 分 切 磨 藏 穀
 友 友 投 分 切 磨 藏 穀

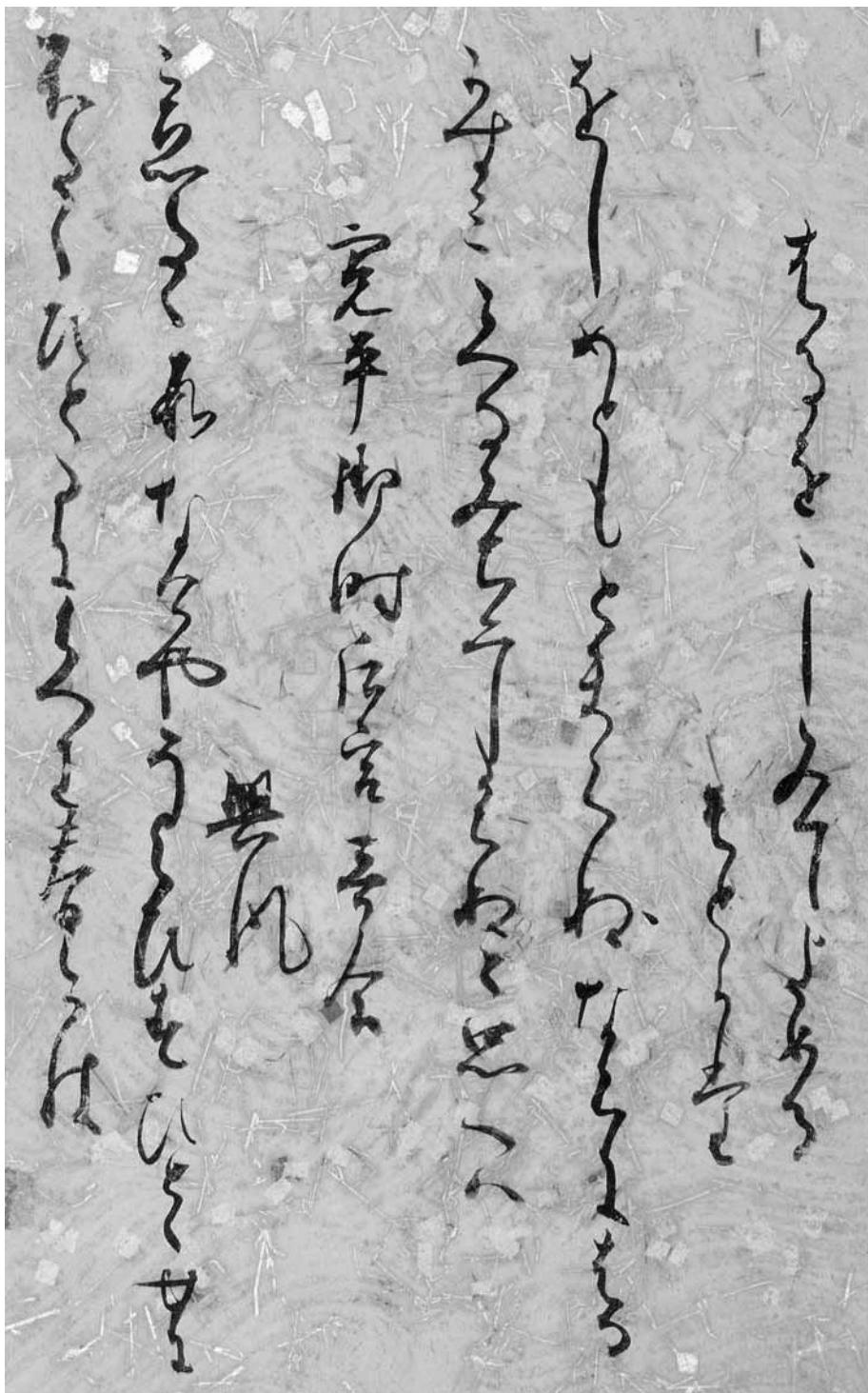


元永本古今集
(伝源俊頼筆)

③

255

〈解説〉元永本は完本で歌数が多いことから、書きぶりが多様で構成もさまざまである。4月号の図版の紀友則の歌は、書き切れない部分を細字にして1行でまとめている。5月号の図版はこの古筆の標準的な構成で、詞書・歌人が定位位置にある。この他にこの古筆の特徴にもなっている散らし書きの部分も



(東京国立博物館蔵)

※掲載図版原寸

(編集部)

あり、どの頁も行間や余白の取り方が絶妙である。今月号の図版は趣きを変え、太い線の連続で全体を統一している。線が決して鈍重に見えないのは穂先が十分に活躍しているからである。3行目の「ぬ」は見せ消ちになっているが、傍点を含め、見えたよう

に臨書していただきたい。

かな研究部臨書課題

(半紙普通判(料紙可)・縦長に使用)別紙を裁断して貼付も可。半懐紙は半紙サイズに切って使用のこと。上記の古筆の掲載部分より歌一首以上を書く。(全臨也可)

特別研究部臨書課題

- A. 大作の部=毎日展審査会員・会員サイズ以内、 2×6 尺・全紙も可
B. 小品の部=半切 $\frac{1}{3}$ 以上、半切以内(縦横自由)
<いずれも上記の掲載以外も可。>

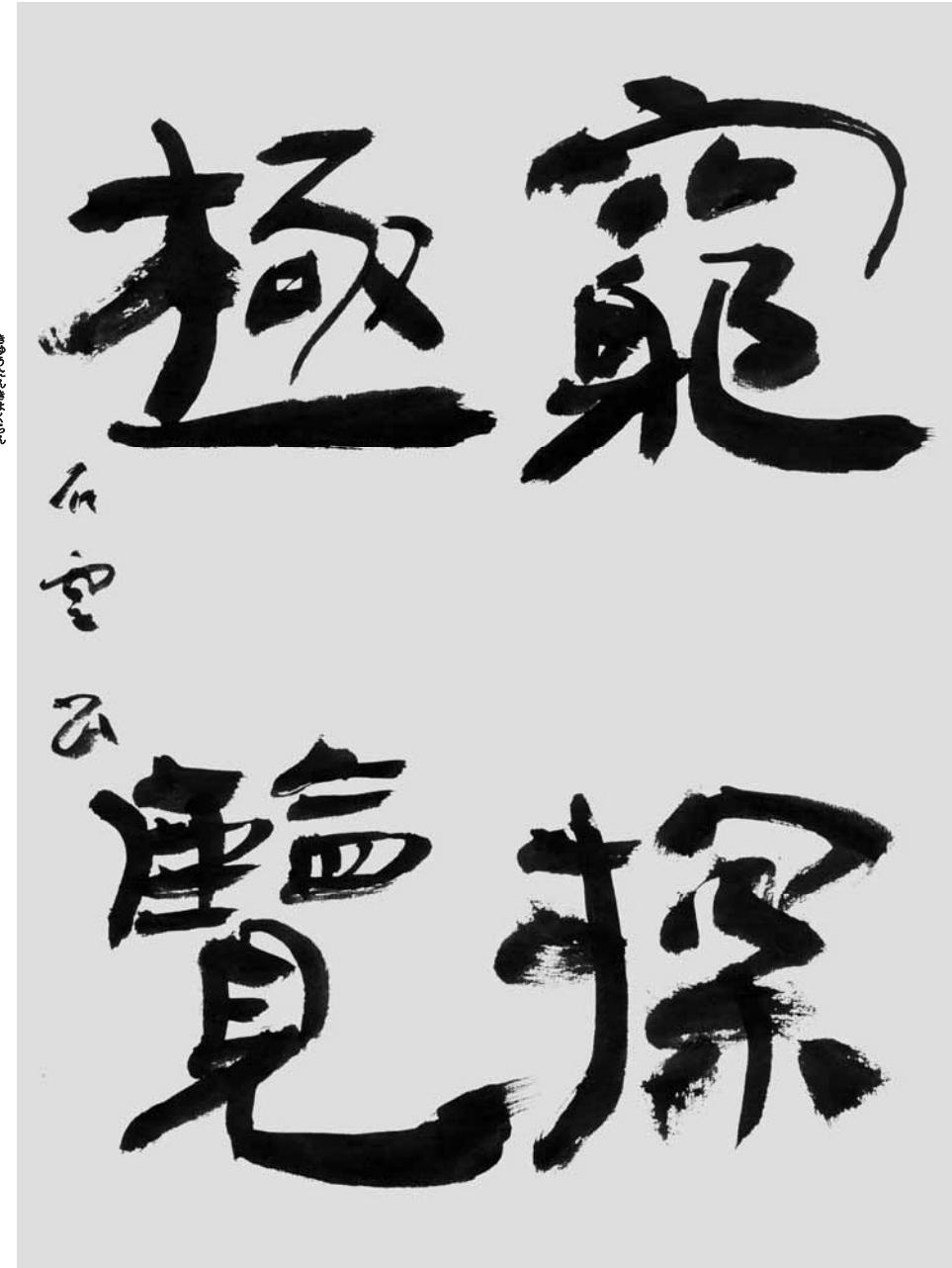
窮探極覽
(韓愈)

(韓愈)

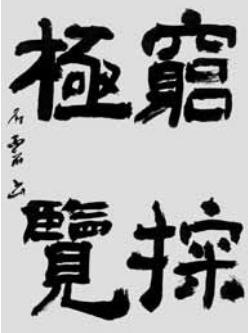
どこまでも尋ねきわめ奥底まで
も見る。

筆の開閉、線の長短、太細の変化をリズムにのせて伸びやかに健康的に筆を紙面に走らせた。実に壯快で楽しい。リラックスした字形が心を癒やしてくれる。強調した画は運筆をリードし、軽い画はアクセントとなって全体の調和を図り、安堵感を与えてくれる。

一方、参考例は漢碑隸風で強固な意志力で地に足をつけた線と、しっかりととした構築性のある字形でまとめてみた。素朴な力強さが狙いである。



書体=自由



参考

花芳柳暗
(花芳柳暗)
(拾遺記)

花はかおり、柳陰が深くなつた
春の景色。

「花」…5画目を少し長くして重心を下げる。それぞれの字は自体の持つ特徴と美しさがある。花は、鄭羲下碑のように下部に重心を下げた方が安定した品格が出てくる。

「芳」…6画目をやや右上がりにして下部を広く明るくした。何となく花の香が漂つて来るような?

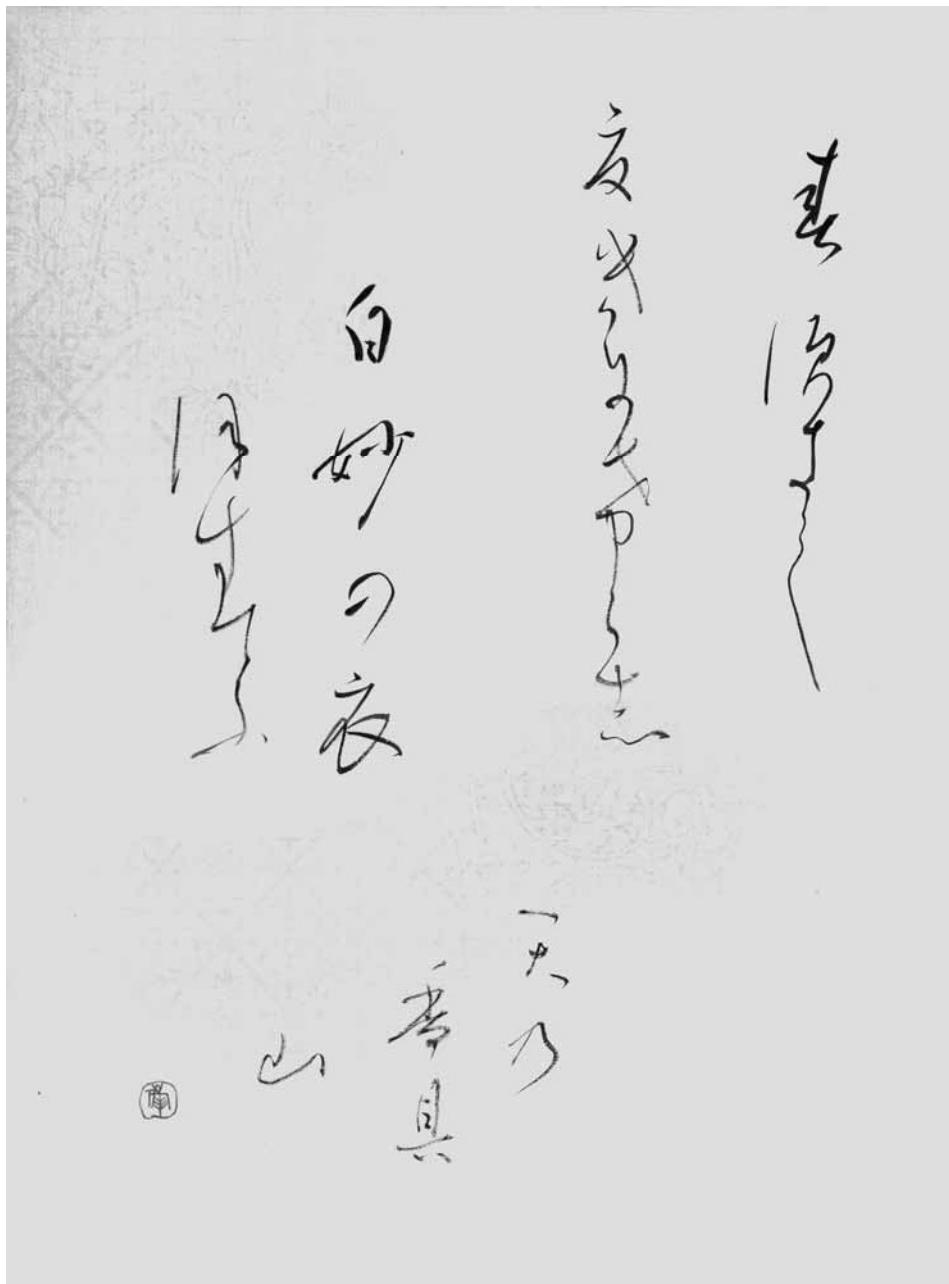
「柳」…木偏の縦画は、ハネてもハネなくてよい。旁の方の夕は、崩れやすい字なので、萎縮した線質にならないように、伸びのある線で空間の取り方に気を遣いながら運筆する。

花芳柳暗 よみ
(花芳柳暗)

書体=楷書



平川峰子



春すぎて夏きにけらし白妙の
衣ほすてふ天の香具山
(持統天皇「百人一首」)

どうやら春が過ぎて夏になつたら
しい。夏になると衣を干すとい
う天の香具山に真っ白な衣が干して
あるそよと夏の到来を喜ぶ歌。
夏空の青と衣の白という色の対比
がさわやかさをイメージさせます。

今回は上段と下段という構成にし
てみました。墨継ぎは白でしました
が、下段の天でも良いと思います。
行頭と行尾の位置、行間の余白が同
じにならないよう気を付けてください。
文字の字体を美しく見せるコツの
ひとつですが、画数が少ない文字は
線を太くして小さめに書き、画数が
多い文字は線を細く、かつ渴筆で少
しだきめに書くと良いでしょう。

よみ方 春す(須)ぎ(支)て(弓)夏き(幾)に(示)け(希)らし(志)白妙の

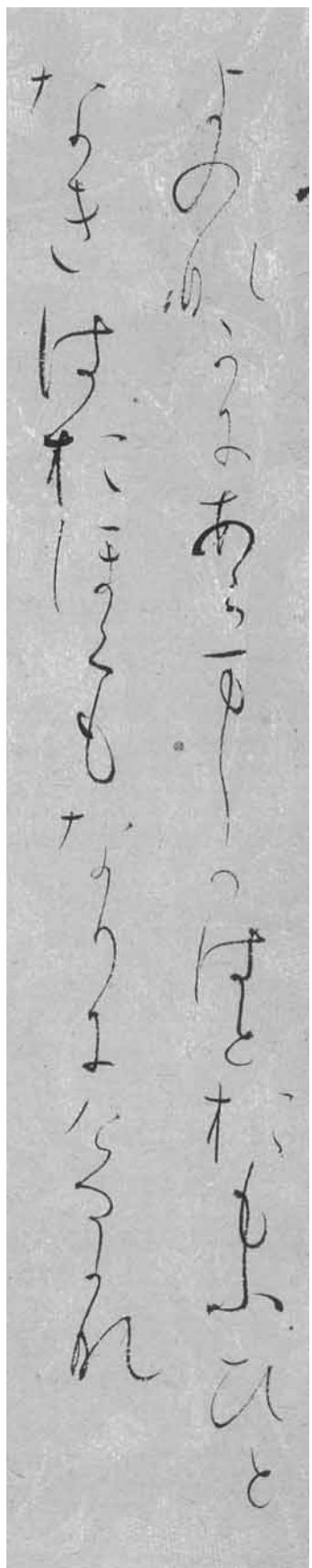
衣ほ(保)すてふ天の(乃)香具山

創作

*料紙は半紙版(33×24.5cm)を使用しましょう。半纏紙は上記のサイズに切って下さい。

かな規定 秀級以下【7月15日締めきり】用紙 半紙タテ $\frac{1}{2}$ (料紙可) (たて32センチ・よこ12センチ)

掲載写眞の和歌を臨書する。部分臨書も可。〈注〉署名は「〇〇臨」。粘葉本和漢朗詠集(掲載写真拡大120%)



よみ方 よのなかにあらましかばとおもふひと
部可尓 万於可
なきはおほくもなりにけるかな

歌意 末永く生きてほしいと思う人が亡くなってしまう、ということが多くなつた今日この頃です。

かな条幅規定【7月15日締めきり】用紙 小画仙紙半切(料紙可)

須田清子選書

習い方解説 (3)

須田清子

木隠れて茶つみも聞くや時鳥

(松尾芭蕉)

俳句は、文字数が少ないので、どんな漢字を使って書くか、また

かな文字との組み合わせ方で、全体の雰囲気が変わります。構成は中ほどの「茶」を少し大きくし、2行書きにしましたが、いろいろ工夫して書いてみて下さい。墨継ぎは2行目の頭の「本」でしました。

*タテ形式に限る

創作

よみ方 木隠(かぐ)れて茶つみ(ちみ)も聞(き)く(久)や時鳥(本と)支春(



木隠(かぐ)れて茶つみ(ちみ)も聞(き)く(久)や時鳥(本と)支春(

よみ方 木隠(かぐ)れて茶つみ(ちみ)も聞(き)く(久)や時鳥(本と)支春(

半田 藤 扇



雨晴天一碧 水暖柳西東 愛見衡門下 明々白地風
(雨晴れて天一碧 水暖かにして柳西東 愛し見る衡門の下 明々たり白地の風)

書体=自由

20文字の2行書きは、少し高度な表現を希望します。文字の大小・構成・線のリズムにより多様な展開が可能です。

文字数を、5・3・2・3・4・3と区切りをつけて、呼吸しながら書き進みましょう。おのずと、自然に変化が起り、得失空に還るさらに美しい余白も加わります。春のすがすがしい情景を想い、筆をとりました。

* タテ形式に限る

漢字条幅規定 秀級以下 [7月15日締めきり] 用紙 小画仙紙半切

西川翠嵐選書

習い方解説 (3)

西川 翠 嵩

3回目は行草書に挑戦してみて下さい。明清調とも呼ばれるこの書体は為政者の権威を示すような書から作者の感情の変化を表出するものとなりました。

行の出だしはひかえめにしつつ山場を意識して文字の大小、潤渴連綿、傾き、線と線の交差のしかた、文字の中の懐ろの広さなどに意をもちいて取り組んで下さい。

蘭陵美酒鬱金香 玉碗盛來琥珀光
(蘭陵の美酒 鬱金香 玉碗盛り来たら 琥珀の光)

書体=自由



漢字条幅規定 秀級以下 [7月15日締めきり] 用紙 小画仙紙半切

西川翠嵐選書

習い方解説 (3)

西川 翠 嵩

3回目は行草書に挑戦してみて下さい。明清調とも呼ばれるこの書体は為政者の権威を示すような書から作者の感情の変化を表出するものとなりました。

行の出だしはひかえめにしつつ山場を意識して文字の大小、潤渴連綿、傾き、線と線の交差のしかた、文字の中の懐ろの広さなどに意をもちいて取り組んで下さい。

習い方解説 (3)

小林琴水

季節、時間を表す大和言葉

日和(天気) うららか(晴れている)
花冷え(寒い) 東風(春を告げる風)
しののめ(夜明け頃) たそがれ(夕方)
夕映え(夕日に照られた景色)
朝な夕な(一日中) ひねもす(一日中)
とこしえ(永遠) たまゆら(一瞬)

ペン字、3回担当致しました。楷書に近い行書で書きました。0.7のボールペンを使用しました。

大和言葉には、季節や時間
にまつわる言葉がたくさんあります。日本は四季が際立つてい
る国であり、日本人は季節や
時間の移り変わりを大切にし
てきました。

○○書

大和言葉には、季節や時間
にまつわる言葉がたくさんあり
ます。日本は四季が際立つてい
る国であり、日本人は季節や
時間の移り変わりを大切にし
てきました。
琴水書

◇用紙 ハガキ大(14.8×10cm)の白紙を使用
◇黒インクのペンを使用(ボールペン・フェルトペン可)

用紙の大きさにばらつきが見られます。

用紙サイズ(ハガキ大14.8×10cm)を守って下さい。

□注意!!

書体=自由

皆様にはお忙かりでござるまことに。
こちらは元気に過ごしております。
本日はお中元として家で収穫した
メロンをお送りします。三日後が、
食べ頃だと思います。どうぞ味わ
てみてください。

大峰

書体=自由

皆様にはお忙かりでござるませんか。こちらは元気に過ごしております。本日はお中元として家で収穫したメロンをお送りしました。三日後が食べ頃だと思います。どうぞ味わってみてください。名前

(掲載手本85%に縮小)

- ◇ 小筆・筆ペン・サインペンなどを使用 署名は各自の名前(号)を…姓は不要です
- ◇ 用紙は普通版半紙横1/2(24.5×16.5cm) B5版コピー用紙(26.0×18.1cm)も可
- ◇ 所定の出品券を作品の右下に貼る

今月のホープ作品。各部総評

NO.768

漢字部 師範 安藤 美悠

筆法が巧みで、直筆、側筆、藏
鋒、露鋒、太細、曲直の変化が多
彩、見応え満載の作品です。

◎漢字部総評 上級は、行草書に
優れた作品が多く見られました。
心を込めて、線に表情を加えるこ
とが創作には大切です。（萬城評）



ペン字部 師範 中原 純子

柔軟な線質で存在感が心に響く。
安定したリズムとバランスで行間
が美しく気脈一貫した作。

◎ペン字部総評 漢字とかなの調
和が取れ、丁寧に書かれた作品が
多かった。落款の印があると全体
が引き締まる。（富美子評）

かな部 師範 篠田恵美子

行をまとめて余白を生かすモダ
ンな作品。3行が巧みに閑わり合
いながら動き線質とともに秀逸です。

◎かな部総評 全体に細く小さい
文字の作品が多く残念。筆先の彈
力を利かせ、リズムのある流れの
生彩感を目指したい。（洋子評）



漢字条幅部 師範 吉田 溪花

作品全体に筆の開閉が確実で、
大変、確りしている。それによる
書線の表出が実に佳くできている。

◎漢字条幅部総評 応募作品全般
に行草作品が多く、さらに隸書、
篆書作品も散見され、非常に多彩
でした。（大峰評）

日本人は、「おもてなし」の心を
も「国民」といわれています。
おもてなしの心とは相手を思い
やる心。大和言葉には、そうした
日本古来のおもてなしの心が息
づっています。（純子書道）

前衛書部 特選 坂井 初江

淡墨の滲みと潤渴の変化を活か
し、紙面に動きとリズムを生み出
した。爽やかな立体感が魅力。

◎前衛書部総評 「線」は大切な表
現要素のひとつ。古典を学び、前
衛書の線を鍛えよう。（紅瑠評）



現代詩文書部 特選 原沢 雄一

エネルギーが弾けるが如き強い
筆致で書き通す。筆圧の強弱、落
筆の高さにより立体感溢れる。

◎現代詩文書部総評 様々な工夫
にチャレンジした意欲作が目立つ。
過剰表現には要注意。（邑峰評）



かな条幅部 五段 御園生芳瑠

潤渴のリズムが美しく字粒の大
きさと行間のバランスが完成度を
高くしている。

◎かな条幅部総評 字粒が大き過ぎ
たり墨量が多過ぎて品格の無い
作品も見受けられた。才松庵などで
余白を勉強してください。（峰子評）

実用書優秀作品

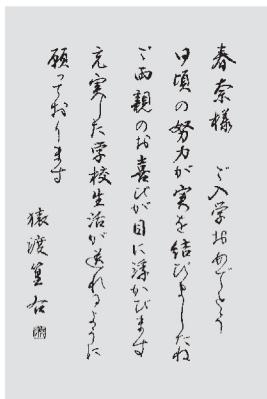
選評 小竹石雲

◎実用書部総評

手紙文の場合は漢字とかなの調和が第一、それに気持ちを乗せることが大切。墨の濃淡があると気持ちが和み親しみが湧いてくる。

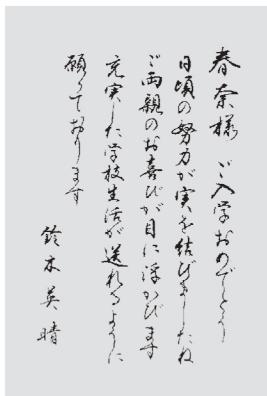
(石雲評)

特選 猿渡篠右
運筆に余裕が感じられる。穏やかな心のこもった筆運びが美しい。



今月の注目作 山口雪翠

特選 鈴木英晴
筆先の安定した動きから生まれた筆線は澄清な空気感を漂わせる。



紅土氷瑠	水千葉雀	樟佳	桂江	粹華仙	耕龍	書游	若葉	日新	誠和	田無	竹秀	宗玉	福島	伊呂	たか	
瑞雲壓雀	雲雀	佳	粹華	龍仙	雲游	若葉	耕龍	新	和	無	秀	玉	州	庵	か	
金井みどり	白秋山	作	吉松	藤山口	外藤井	佐藤工	及川藤	石崎	飯塚	秋	秋	茂木	澤	木	猿渡	
綾乃雨香	秋山	作	白秋山	吉松	藤山口	外藤井	佐藤工	及川藤	石崎	饭塚	秋	木澤	澤	木	猿渡	
正啓	玉四	入	高立	幸耕	雲真	精扇	心	春	もく	汀	もく	千葉	常盤	大雲	芳蘭	
こ	華佳		枝	四	高	立	幸	耕	もく	汀	もく	千葉	常盤	大雲	芳蘭	
加	春角	選	大梅	猪井	伊石	新上	青	山本	深澤	平野	須田	水津	中野	鶯	木村	
藤瀬明	奥岡日	張川友	大山股	上藤森	井利木	上	木	本	本	野	田	山	山	山	木村	
翠陽夏	裕芳	流美	麗麻四	久白	洋和	博	藤啓	天	立	五幕	華	紅蘭	祥	花	大江だ	
陽子	子蘭	子	峰子	慧	藤	千	藤	立	幕	華	蘭	蘭	蘭	花	大江だ	
(選外)	翠	蓮	春	白	佑	深	蒼	天	江	立	華	芳	芳	花	大江だ	
名氏略	美	汀	八	佑	紅	深	白	江	江	立	華	蘭	蘭	花	大江だ	
368	横山	柳瀬安鷗	椿	重櫻	眞美	鶯	眞	浜	中	中	鶯	高木	高木	高木	花	大江だ
	舟	華蘭	紅	桜	満	富	里	林	中	中	千	杉	木	木	花	大江だ
								本	原	鳴	谷	木	木	木	花	大江だ
								多	久	田	元	木	木	木	花	大江だ
								奈	美	見	千	木	木	木	花	大江だ
								余	純	里	谷	木	木	木	花	大江だ
								星	嘉	白	光	昭	合	花	大江だ	
								永	賢	賢	賛	規	規	規	花	大江だ
								美	子	樹	美	美	美	美	花	大江だ
								子	子	生	香	香	香	香	花	大江だ
								琳	子	樹	華	華	華	華	花	大江だ
								風	子	生	芳	芳	芳	芳	花	大江だ
								良	子	樹	華	華	華	華	花	大江だ
								祥	子	樹	華	華	華	華	花	大江だ
								鼓	子	樹	華	華	華	華	花	大江だ
								風	子	樹	華	華	華	華	花	大江だ
								屬	子	樹	華	華	華	華	花	大江だ

前衛書部(特選)

現代詩文書部(特選)



美珠涌陽梨
紀紅翠子秀
みどり悠

菜紫珠莉圓
千莉圓
渴筆と細線のバランス絶妙
弧を描いたる筆勢意欲的な作
基線と滲み立体感あり
大胆な構成、気迫強る力作

選評 倉林紅瑤

みどり
悠
博
空間に響く線の表現
軽妙な運筆のリズムが魅力
淡墨の滲みと筆線が躍動

みどり
悠
芳
香
長
變化に富む文字が流れる
切れ味鋭い筆線が爽やか
瞬発する細線モダンな作
構成と文字の変化成功

炎子
香樹
藤連
光樹
鐘蘇風の素朴な厚みあり
骨々とした線とリズム
伸びやかさと生命感が佳
安定感のある作品作り
構成とリズムが興味深い

幸邦
香雲
雅邦
香子
自然な書き振りで変化あり
散らし書と墨色の工夫佳
淡墨色の美、構成も佳
筆の開閉自在、深みあり
墨の濃淡の美、構成も佳
墨の濃淡の美、構成も佳

選評 大平邑峰

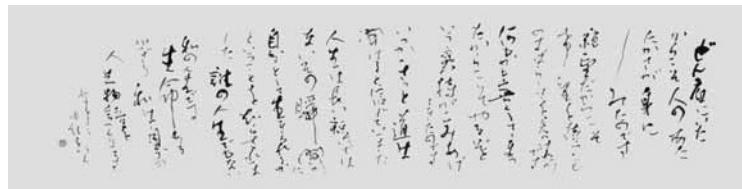
今月の

特別研究部優秀作品(特選)

選評 小竹石雲 後藤大峰 千葉蒼玄 平川峰子

小品の部

現代詩文書 (A I) 清水由紀子 「いつかきっと」



清水由紀子 書

35×135cm

◆ 飄々とした気持ちで
楽しく筆を遊ばせながら
心境を訴えている。
無理のない運筆と文字
の大小が自然で、一字
一字の文字表現も妙味
がある。

(石雲評)

前衛書 (華芳)
庄司紫千
「ヘルプ」

漢字 (翠柳)
加藤紫翠
「于石詩」

臨書 (堂光)
佐藤光耀
「智永真草千字文」



庄司紫千書

135×35cm

◆ 紙を切り裂くような鋭い線が印象的で見る者を引き込む。
上部の黒の重量感と下部の軽さが全体のバランスを巧みに
整えている。完成度が高い。

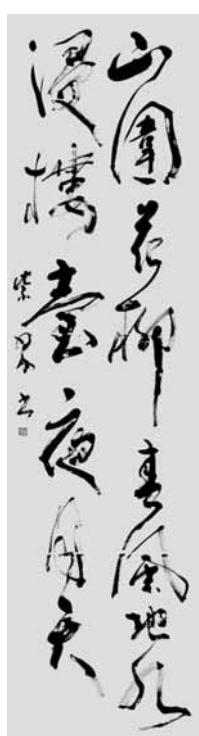
(蒼玄評)

◆ 文字の大小の妙とともに潤滑の表出も大変よく作品全体
をひきしめている。また行の流れもよく品位ある作品に仕
上がっている。迫力ある作品。

(大峰評)

加藤紫翠 書

136×35cm



佐藤光耀 臨
漢字 (翠柳)
「智永真草千字文」

135×35cm

◆ 筆の開閉が確実で、それが線質の佳さに繋がっている。
古典の原帖の観察もしっかりと細部まで行き届いてい
る。今後の作品にも期待します。

(大峰評)



千上一 千八香華澄た大東紅大華一 葦秀一 玄四大四誠一 和創一 四集創
葉泉な 葦街苑祥春か雲絶瑠阪祥字書 前刻葉小衛
猪早一 佐松小加深浜宮薄原豊岩の庄刻工坂 千奥藤伊塙石詩井阿一 及川
又部 藤浦川藤澤野原田島鳴渕部司字藤井 葦川井藤田崎一 上部
理 桂華香雅佳永香春春俊 櫻空 山初房江 陽麗花四美甘芝珠豊流
扁朗 香泉輝芳月童扇綠汀勝雄

創作の部(45点)	前衛書の部(36点)	漢字(7点)	かな(5点)	現代書の部(21点)
臨書の部(36点)	漢字(10点)	かな(11点)	前衛書の部(11点)	現代書の部(6点)
81点	31点	10点	5点	21点

総出品点数
特選候補者

小品の部

大作の部

部分拡大



〔臨書〕(清月) 境野和子「元永本古今集」



境野和子臨

60×180cm

◆美しい料紙に書かれた元永
本の臨書は美しい旋律を感じ
させる。線質良く特に細線が
上品に書けている。(峰子評)

〔前衛書〕(白珠)

村井利喜
「動」



〔臨書〕(紅瑠) 相澤敦子「智永真草千字文」



相澤敦子臨

35×236cm

部分拡大



◆素晴らしい
一言に尽きます。
原帖観察が確実
で一文字、一字
字、真摯に取り
組んでいます。

(大峰評)

〔現代詩文書〕(宗苑) 白井真理「夏雲(田中冬二)」



白井真理書

60×240cm

村井利喜書

180×60cm

◆大胆な筆致と
骨力のある線条
で「冬二」の世界を
うたいあげる。
後半を情趣豊か
に締めくくった
その手腕が光る。(石雲評)

◆上部の丸味を
帯びた形状から
流れ落ちるよう
に連なる線で構
成。全体を貫く
かな線が魅力的
である。(蒼雪評)

創作の部(41点)	
漢字	— 3点
かな	— 6点
現代	— 14点
前衛	— 18点
臨書の部(14点)	
漢字	— 11点
かな	— 3点
(特選候補者)	
(創作の部)	
「漢字」	
「かな」	
「現代詩」	
「前衛」	
「大雲」	
「青蓮」	
「舟竇」	
「金井みどり」	
「菜圓」	
「大雲」	
「紅瑠」	
「舟竇」	
「金井みどり」	
「菜圓」	
総出品点数	
55点	

漢字研究部
(真草千字文)

選評名 越 蒼 竹

今月のホープ作品

忠則 盡命 臨深 履薄
忠男 勇志 沖後 淵汝
風興 温清 似蘭 斯馨
風興 温清 似蘭 斯馨

本 郷 谷 恵

課題図版に使われている小川本の書風を忠実に再現した見事な臨書である。字形ばかりでなく、運筆の抑揚とリズムもよく捉えられている。落款の出来栄えも素晴らしい。

◎漢字研究部総評

小川本の楷書部分を臨書する場合、関中本などの碑刻本よりも行書的な運筆が現れていますので注意が必要です。また草書部分を臨書

するときは、一文字を同じ太さで書いてしまふことなく、運筆の抑揚を意識して一つ一つの点画を区別する節度を大切に書くとよいと思います。「真草千字文」は草書を楷書と対比させることで正しい草書体を学ぶ教材としての役割をつけていますから。また落款を作品の一部として大切に書きましょう。

溫 風 清 暉

忠 則 盡 命
忠 男 勇 志
忠 深 履 薄
忠 淵 汝 後

斯 馨

忠 則 盡 命
忠 男 勇 志
忠 深 履 薄
忠 淵 汝 後

履 薄 深 清 似
蘭 斯 似

初 一 敦 有 藤 有
希 子 江 惠 子 津 象 子

後 沢 淵 汝

忠 則 盡 命
忠 男 勇 志
忠 深 履 薄
忠 淵 汝 後

忠 則 盡 命
忠 男 勇 志
忠 深 履 薄
忠 淎 汝 後

履 薄 深 清 似
蘭 斯 似

溫 風 暉 淵 汝
溫 清 後 沢 淵

菜 紫 信 芳 恭
潤 圓 玉 代 博 子

忠 則 盡 命
忠 男 勇 志
忠 深 履 薄
忠 淎 汝 後

忠 則 盡 命
忠 男 勇 志
忠 深 履 薄
忠 淎 汝 後

忠 則 盡 命
忠 男 勇 志
忠 深 履 薄
忠 淎 汝 後

忠 則 盡 命
忠 男 勇 志
忠 深 履 薄
忠 淎 汝 後

忠 則 盡 命
忠 男 勇 志
忠 深 履 薄
忠 淎 汝 後

柳 亜 明 龍 翠 蘭
明 希 美 貞 陽 舟

後 沢 淵 汝

忠 則 盡 命
忠 男 勇 志
忠 深 履 薄
忠 淎 汝 後

忠 則 盡 命
忠 男 勇 志
忠 深 履 薄
忠 淎 汝 後

忠 則 盡 命
忠 男 勇 志
忠 深 履 薄
忠 淎 汝 後

忠 則 盡 命
忠 男 勇 志
忠 深 履 薄
忠 淎 汝 後

眞 藍 令 恵 英 谷
華 水 子 里 晴 秀

かな研究部
(元永本古今集)

選評 酒寄光子

今月のホープ作品



かな研究部 特選 加瀬 明日夏	かな研究部 特選 加瀬 明日夏	かな研究部 特選 加瀬 明日夏
特徴的な肉太で強い線と優雅で柔軟な連綿線との気品あるバランスを上手く表現できました。逸な臨書作品です。良く勉強されました。	全体的に誤字は少なく良く書けていました。拡大臨書の場合、間の取り方に気を付けて、行の流れを意識して書いてみましょう。	全体的に誤字は少なく良く書けていました。拡大臨書の場合、間の取り方に気を付けて、行の流れを意識して書いてみましょう。
◎かな研究部総評		
かわらわ立日蛭松 か春か精新和村 秀	唯善長う大誠た書菊静桜藍清紅大清蓮伊わ大墨紅 一田月る雲和か游月翠草月風雲月紅呂か雲綠瑠	附正華○加瀬明日夏
梅植印猪石安青 津田東股橋藤木 佳代紅正白嘉美玉 子雨蕙慧子悠枝	逢平原木片鶴岩小新小苗石飯田礎境本鈴伊鷺武須岡金岡山田城島烟貝野田木簾山田城島 沢野澤村山澤崎野井暮代井寺ト寿 唯和典順惠琴簾美蕙真佳祐ミ美清和美英幸美宗香麻智夏 一江子子風舟葵代子紀蕙子纏子雪晴子梢楓舟美子	特選
清月佳	こ幸清八書華も紅常上 だ扇月街泉仙く風盤泉 蓮心扇精秋瑠 澄Aた玉光素蕙大祥こ玉上こ渡高 春Iか川彩雪書阪紫だ川泉こ辺井	
相川作 <small>(60書)</small> 京子	吉山森村松前本船藤早濱沼錦寺千武高鈴新清猿佐櫻坂坂小北川叶加大榎 野本奈 彩梅都佳惠瑛谷代尚 祥香蕙月泉仙蕙子朗幸心子扇語子右奈貞博美江子祥り子陽子	登
正楳も紅華会く瑞入	こや王高あ一八石梓高上 だま川崎か弦街賀江真 澄琇高も練書上蒼天文も泉上や世清竜竹麗書水伊蒼こ奥泰秀華上正こ華千静上和正 華豊散仙泉平華	
浅浅青藍澤選	吉山谷矢本村三松松本深深林二西長永中中仲戸辻塚田瀧高高須七清齋込小小小菊柏大梅岩猪井井石 野井木澤 口知口吉上浦丸永尾多堀澤通川島井村野里川部本玉口山橋井藤五水藤林端千木池地谷渕原潤又は上上上川知 裕 心和藤白江津選	は 三木 蘭杏美蕙千溪泰直恵和る虹俊理智清英津 佳子江香蕙樹石鈴子洗月子象美泉子夫風子子子泉秋雨美舟邑艸子姫香子水子な祥雄扇美泉二子
花映竹楓薈堺正秀一書富蒼春竹梓遊高高墨竜青華秀白 祥紅原会湖	大矯正薈樹森澄大青明玉梅生椿附澄う八華八塙あ森青も佑遊仙 華生散閃遊貴風汀美江山崎真花泉蓮仙散扇 雲韻華湖原地春阪蓮漢藻桃大翠中春の街祥街	か地湖く朋雲台
杉菅代白下嶋柴篠椎佐佐佐笠櫻紺小木小具熊桐木神川河加金葛葛片加鍛小小萩大太大大岩今井板石石池池新阿安熱 田野田石村田田名野藤々木々田代野峰暮口谷谷下田元合納田城桐瀬治野澤原西田島石瀬閔ノ垣渡田井治井部海 明 祥映葉倫日記洋美光利華芳蒼淳智雪遊加美智豊竹溪壽典栄と順真百恵桃夏翠朱和玉一良昌枝祥心春青翠悦玲幸朱藤清明桃 風紅子和香枝子子子風舟華山子紀子美鈴風子仙敬子優花美代峰蓮星子藻美子子園華章鳳徑子子音雪子隆翠		
還今惠大明華祥琇華権もた菁中玉華墨幕澄大祥一生掃椿 外市泉阪漢仙紫韻仙翠くか湖川川祥宣張春雲紫閃大雪翠 崎朋弦かせ澤泉路雲壑茎韻	高佑一たは麗上姫隆水水琇 麗福清A生千玉青清華高華玉書祥 澤山月I大葉松湖月仙真祥川泉紫	
167和渡六吉山山縣安森本宮三御三真松増堀松藤福平除原原早浜長萩西長永中中中富徳寺田玉田多竹竹武高閑鈴杉 名田邊波田日本山瀬鳴田柳内田園澤庭島田切木原本富山尾坂野谷原川井并野島江田永江原村中田澤井并木根木田 氏 名志信掌鶴美令琇砂藤小梨蒼白智ヶ翠華幸悦望書牧つほ裕祐聖永久洋美久悦柳久よ瑞裕淳惠春幸耶采恒香一昭代谿睦 峰代玉子楓京子華子谷堂帆舟瑠子ミ舟秀雲子子惠子子子子朋蕙子翠子子仙子明子子翠子子衣音子華江華子琳子		

審査会員の部 結果発表 (出品数 漢字33点・かな13点)

選評 種谷萬城・下谷洋子
漢字秀逸作



西川 藤象



白井 真理

〈次点・50音順〉



神谷雲卿



茂木 純水

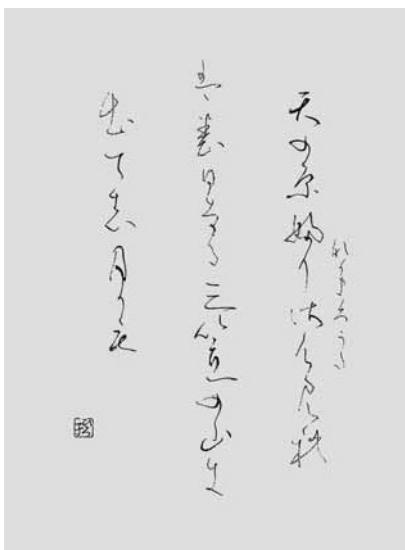


大内 炎軒

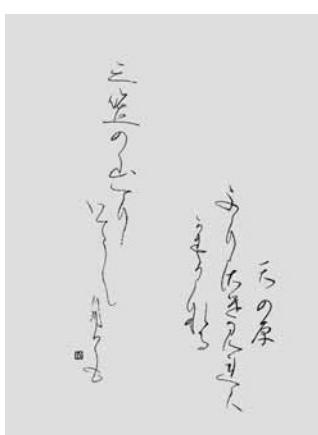
潤渴、曲直、細太のバランスが良く、筆路も明解で、心地の良い作品。線質は上質で、高度な技術の裏付けを感じる。完成度の高い行草書作品です。

(萬城評)

かな秀逸作



佐々木 浩子



茂木 純水



奥村 美楓

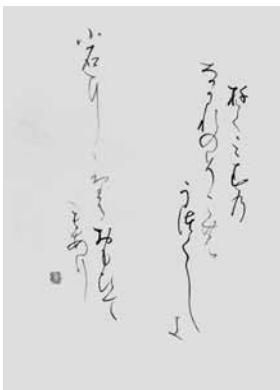
行書き形式としては、かなりよく考えられた作品で、3行のバランスもよい。歌の作者名はこの位置でよかつたか、墨量も如何か、更なる工夫を期待！

(洋子評)

「書道芸術」特別昇段級試験 師範合格者模範作品

かな部 第三種

創
作



臨書（寸松庵色紙）



創
作

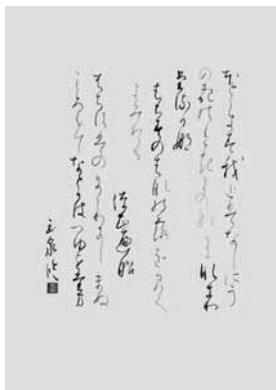


臨書（寸松庵色紙）



一閃 伊与田 玉泉
・古筆は特徴を捉え、リズムよく仕上
がりました。創作は流麗さがあふれ、
立体的で魅力的な作品です。

臨書（関戸古今和歌集）（小島孝予）



楓会 白石倫和
・古筆は2点とも字形のみならず線質
も良く素晴らしい。創作も自然な運
筆で品よくまとめました。

臨書（関戸古今和歌集）（下谷洋子）



総
評

審査長
下谷洋子

「書道芸術」特別昇段級春季試験が

行われました。春季の三種の実施科目
は「漢字条幅」「かな」の2部門で、
他は二種までです。今年は昨年より受
験者数が若干増加しました。

昇段級試験には必ず臨書があります。

漢字もかなも、原本を掲載し、文字数
や書く場所が指定されますが、普段肉
筆の手本を指導者からいただいている
方にとてはかなりハードルが高くな
りますね。字形だけの模倣ではなく、
線質やリズム感、墨量などの細部にわ
たり評価されますが、原帖があるため、
それをどのように解釈して臨書するかに
かかってきます。特に高段ではそれを
表現する力量が試され原級留め置きも
出できます。毎年、古典は決まってい
ますから、普段から原帖に親しみ、丁
寧に時間をかけて取り組みましょう。

参考にされて下さい。

漢字条幅部 第三種

大雲 舟 寶 惠 美

竹扇 寺 前 華 扇

・三位一体とも氣力の充実と力感溢れる作。古典を昇華し、自己を高めた表現にエールをおくりたい。
(小竹石雲)

・筆先を沈めての運筆から清楚で高雅な雰囲気を醸し出している。細部まで気持ちが入った作。
(小竹石雲)

楷書 創作

圓毫促點聲靜新孔
硯寬頑何足云 恵美書

行書 臨書(争座位文稿)

一主天下葵丘之會徵有振
務而教去九國也日行

草書 臨書(書譜)

す笑へ代興妍因俗
り也亦契之化 恵美書

各 部 短 評

漢字

〔一種〕孔子廟堂碑は特徴を捉えるのが難しい古典ですね。力の入り過ぎた作品も見受けましたが、温厚で上品な書風をよく観察して、優しい雰囲気の

作品を心がけましょう。

(北村白流)

まで書き込む。古典の学習は、原帖を深く見つめ、線の鍛錬することに尽きる。

(菊池富美子)

楷書 創作

圓毫促點聲靜新孔
硯寬頑何足云 華扇書

行書 臨書(争座位文稿)

而教去九國也日行者半九十也言煥前未跡

草書 臨書(書譜)

す笑へ代興妍因俗
り也亦契之化 華扇書

作品を心がけましょう。

(北村白流)

まで書き込む。古典の学習は、原帖を深く見つめ、線の鍛錬することに尽きる。

(菊池富美子)

かな

「一種」大らかな運筆で臨書されてい
る作多數。墨継ぎ箇所も忠実に表現し
ているので、安定した作が多かった。
時間の許す限り眺めて、新たな発見を
見出すことが大切ですね。（見越雪枝）

「二種」粘葉本は線の多様性が特徴的
ですが、やや苦心の様子が窺えた。創
作は紙面の中で細すぎや大きすぎあり。
かなは余白表現も大切です。バランス
も考慮しましょう。

（見越雪枝）

「二種」関戸本は太細、濃淡の流麗さ
が料紙によってさらに表現できますの
でできれば料紙で仕上げましょう。創
作は全体の景色を表現するよう、十分
に工夫して下さい。（小島孝予）

漢字条幅

「二種」楷書は皇甫誕碑の引き締ま
た鋭い線の表現が鍵。線質と字形の特
徴を適確に伝える鑑賞力が必要。行書
は創作ですが、日頃の古典学習の積み
重ねが基礎になります。（種谷萬城）

「二種」特に1行書きの作品で墨色の
変化がないものが目立った。字数が少
ないので字形の太細は必要です。漢字
とかなのバランスを考えたいです。
（松村くに子）

「二種」俳句は行の揺れが乏しく、横
への広がりが必要かと思います。和歌
はかならしく流麗な作品が多くたと
思います。紙面に対するの字の大きさ
には熟慮したいですね。（松村くに子）

（菊池富美子）

ペン字

「二種」氣脈一貫した作品は、行間や
余白が美しく安定した仕上がりになる
ものです。始めから終わりまで同じリ
ズムで書き切ることも大切です。

（北村白硫）

「二種」各書体において優劣の差が社
中間でやや、散見されました。数多く
の臨書に励んで頂き、レベルの向上を
期待致します。更なるご精進をなさい
ますように祈念します。（後藤大峰）

かな条幅

「二種」特に1行書きの作品で墨色の
変化がないものが目立った。字数が少
ないので字形の太細は必要です。漢字
とかなのバランスを考えたいです。
（松村くに子）

か
な

漢字条幅

22名

19名

佑朋	江龍	伊与田	大河原智美	佐藤	伊与田	阿部	幸扇	か
一閃	上泉	玉泉	大谷	真澄	大河原智美	石井	明里	な
高井	高井	大阪	大阪	翠蓮	伊与田	悦子	康弘	
大阪	大阪	鎌治	鎌治	北村登志子	大河原智美	蘇我	池田	
祥紫	小島	前橋	前橋	佐藤	佐藤	石井	粹香	
玉川	千葉	楓会	楓会	白石	白石	伊与田	今井	
秀畝	上泉	書泉	書泉	佐藤	佐藤	伊与田	景月	
椎名	墨縁	小島	小島	菅原	菅原	伊与田	倉吉	
光子	附中	助川	助川	白島	白島	大河原智美	萩田	
長沼えり子	墨縁	林	林	天璋	天璋	伊与田	良風	
洋子	前橋	矢崎	矢崎	白嶺	白嶺	伊与田	重松	
中山	明香	香蓮	香蓮	寺前	寺前	伊与田	守正	
俊一	天璋	孝秋	孝秋	華祥	華祥	伊与田	白鳥真智子	
敏江	横堀	香苑	香苑	八街	八街	伊与田	清家	
富澤	横堀	歩美	歩美	山崎	山崎	伊与田	昌美	
星子	前橋			晴美	晴美	伊与田	やま	

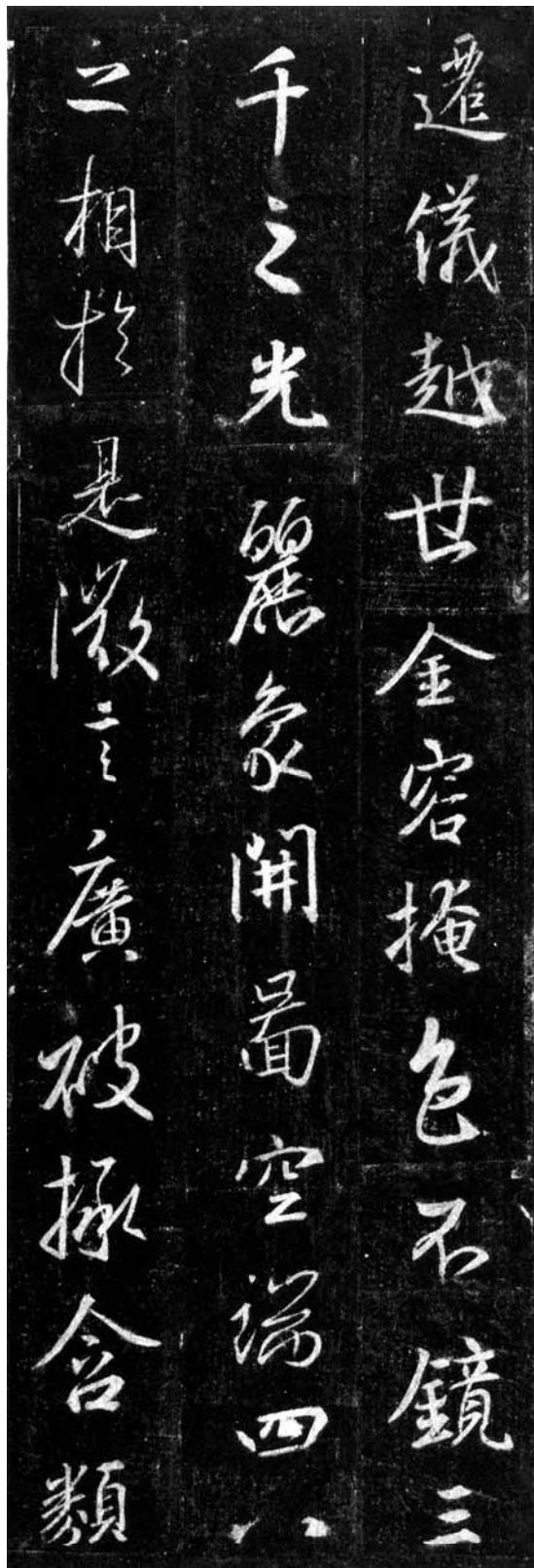
(50音順)

おめでとう
ございました

(50音順)

〔特別昇段級試験臨書課題〕

※臨書課題は全て、写真掲載部分の中から規定の文字数を臨書する。掲載以外は違反となります。



集字聖教序 (行書)

漢字部

第二種 半紙に写真掲載の中から12文字を臨書

△75%縮小△



遷儀越世。金容掩色。不鏡三ノ千之光。麗象開圖。空端四八ノ之相。於是微言廣被。拯含類。



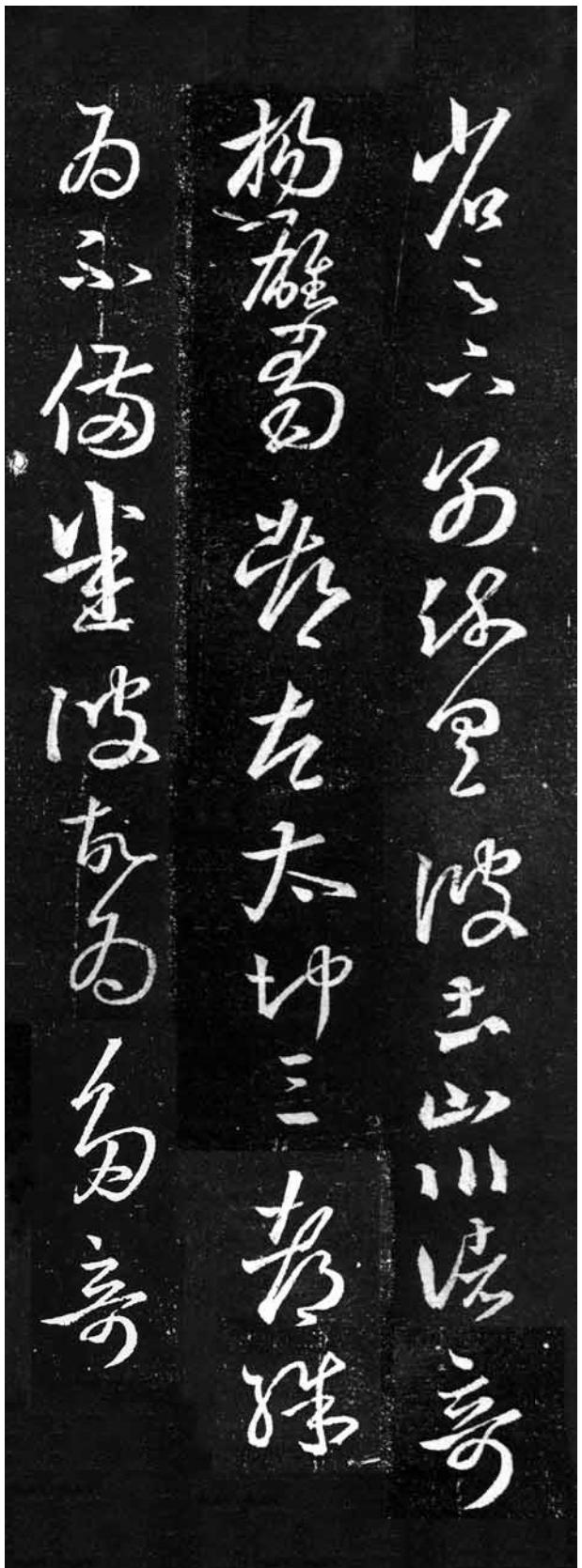


顏勤礼碑（楷書）

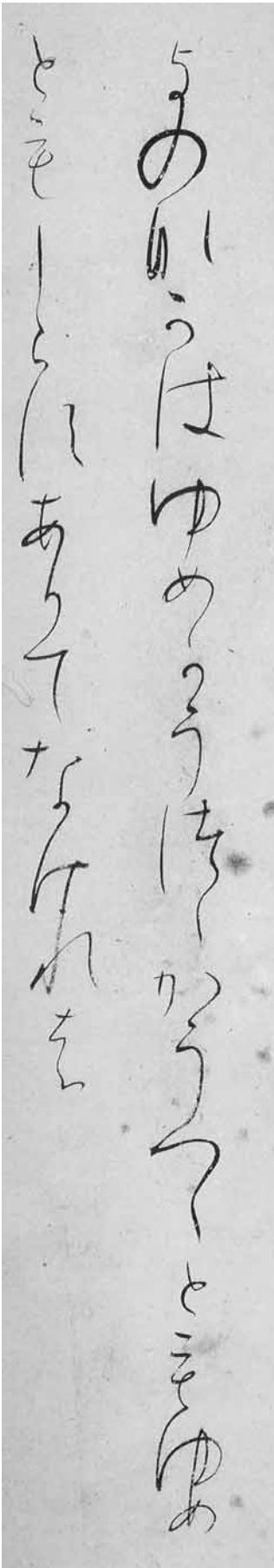
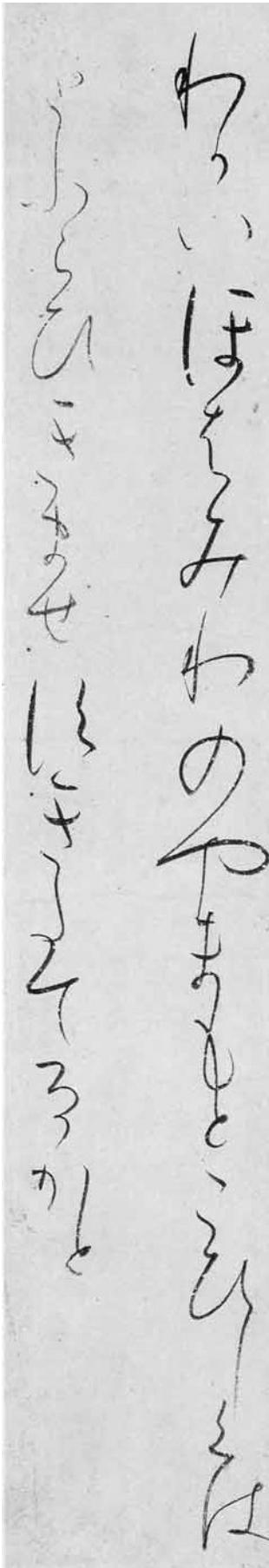
漢字条幅部

第二種 半切に写真掲載の中から14文字を臨書 △50%縮小△

省足下別疏。具彼土山川諸奇。楊雄蜀都。左太沖三都。殊爲不備悉。彼故爲多奇。



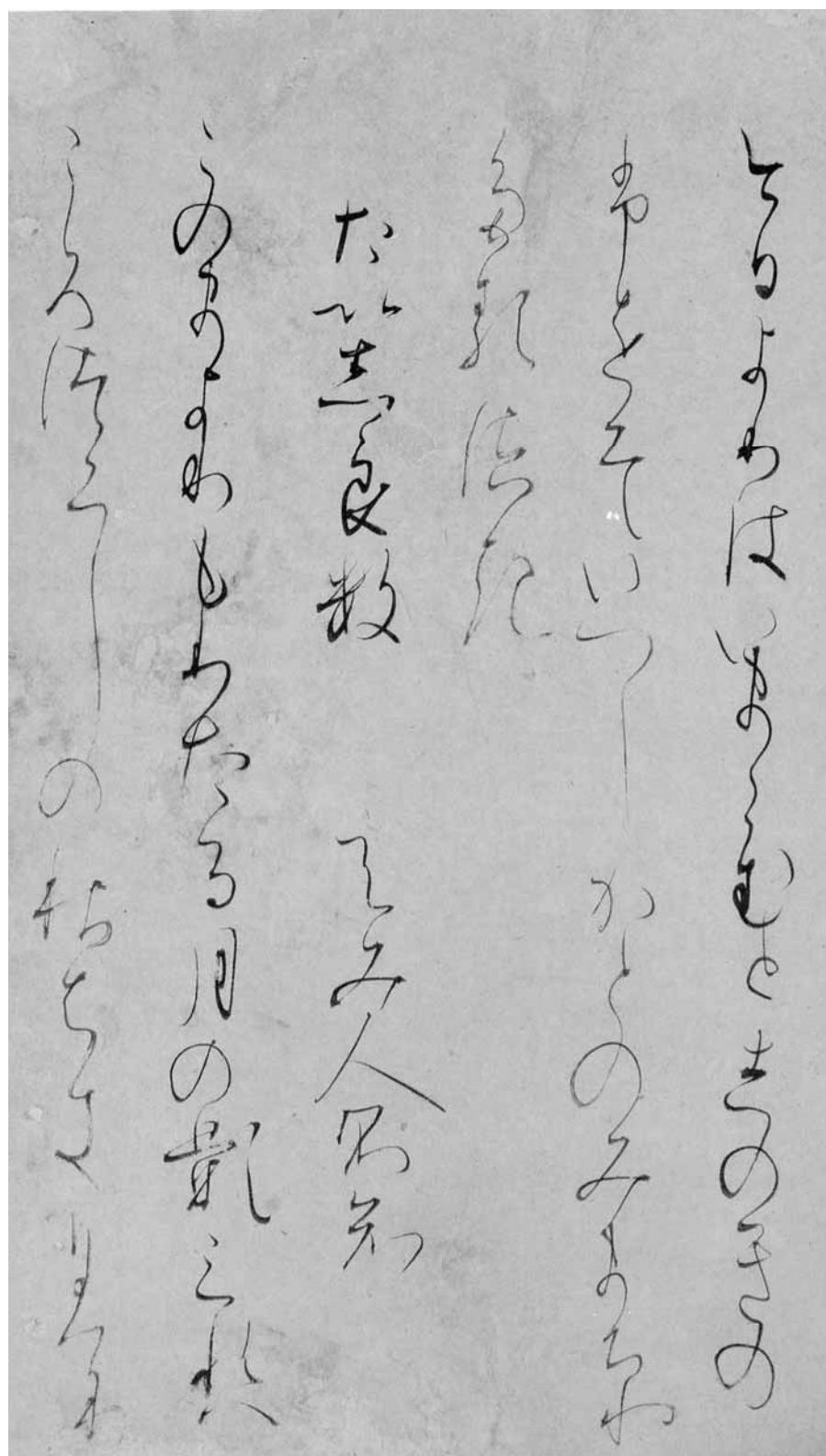
よのなかはゆめかうつゝかうつゝともゆめ／ともしらずありてなけれど
わがいほはみわのやまもとこひしくは／とぶらひきませすぎたてるかど
（毛須多）



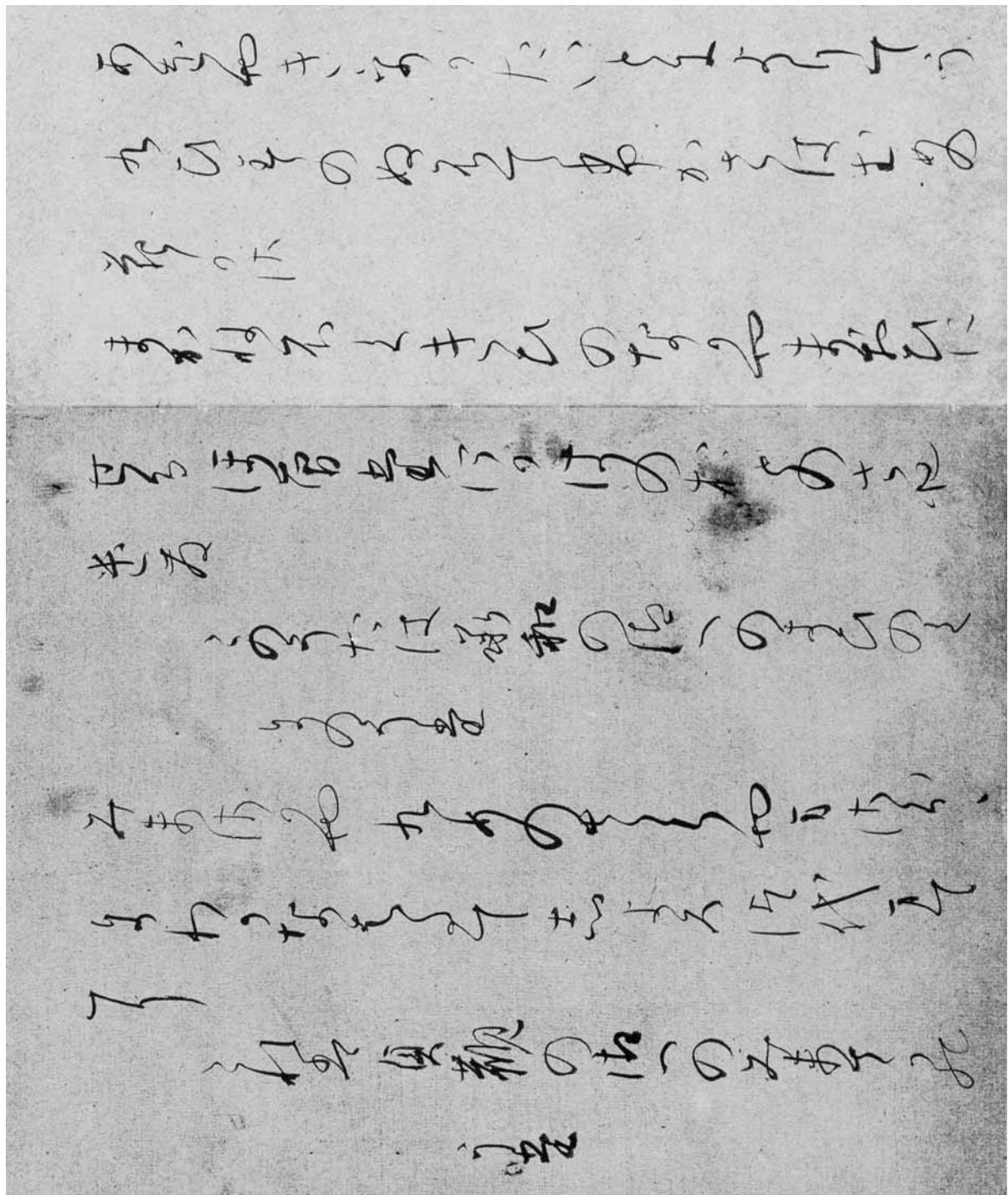
よのなかはゆめかうつゝかうつゝともゆめ／ともしらずありてなけれど
わがいほはみわのやまもとこひしくは／とぶらひきませすぎたてるかど
（毛須多）

※図版は原寸

※読人や詞書も必ず書くこと。



※4行目「よみ人不知」の「不」の1画目の汚れは書かないでください。



あをやさをかたじこによりてう／ぐす
ぬふてふかさはむめの／花がさ／まがねふく
のなかやまおびに／せるほそたまに／がはのおとこのさや／けさ／このうたは承和の御べのき
のく／にホニのうた／みまさかやくめのさらや万生／にホニわがなはたてじよろづ代まで／に耳
これは眞觀の御べのみまさかの／うたま

*掲載図版・75%に縮小

(注)かな条韻部第三種の臨摹課題の範囲は、令和10年までJの箇所に固定します。

特別昇段級試験受験予定の方

特別昇段級試験において、応募資格間違い等により、受験取消となる方がおります。この場合、作品は返送致しません。

また、過入分の受験料について返金は致しますが、以下の形となります。

①3,000円以下…切手での返金

②3,001円以上…送金手数料を差引いた額を返金

受験可能級や受験料について、必ず要項をご確認の上、間違いないようにお申込みください。

書道芸術 秋季特別昇段級試験受験希望の方へ

- 「書道芸術」を購読されている個人、及び1ヶ月5部以下の団体（指導者の代表者申請も可）で昇段級試験受験希望の方は必ず期日までに「はがき」にて申し込みをしてください。（電話では受け付けておりません）
- 団体で「書道芸術」を購読されていても、昇段級試験は個人で申請を希望する方も必ず期日までに「はがき」にて申し込みをしてください。

*申し込み締切

△8月21日(木)△

△はがき記入例△

書道芸術特別昇段級試験に申し込みます。

①住所 東京都千代田区東神田1-16-7
101-00011

②名前 鈴木 一郎

郵便はがき	
85円 切手	10100031
東京都千代田区○○○1-1 鈴木 一郎	東京都千代田区東神田1-16-7 東神田プラザビル3階
書道芸術編集部特別昇段級試験係 御中	公益財団法人 書道芸術院

*5部以下の団体で申請する際は、
①の住所と②の名前は書類を受
け取る代表者の方のみの記載で
結構です。

※春季特別昇段級試験の際、秋季以降の書類不要と回答または、未回答の団体には書類送付されませんのでご注意下さい。

極上の仮名

王朝貴族の教養と美意識

二〇二五年六月二十四日火—八月三日日

書家であり日本書跡の研究者であった飯島春敬（一九〇六—九六）の蒐集品をおさめた書芸文化院「春敬記念書道文庫」と五島美術館が収蔵する

平安時代に書かれた仮名の名品を中心に展観

十二世紀から十二世紀に鑑賞用として尊重された仮名の書風や

料紙装飾に着目し、王朝貴族の美意識を探ります。

あわせて春敬旧蔵の明・清時代の中国書跡や拓本を厳選して公開（企画一覧表示登場あり）。



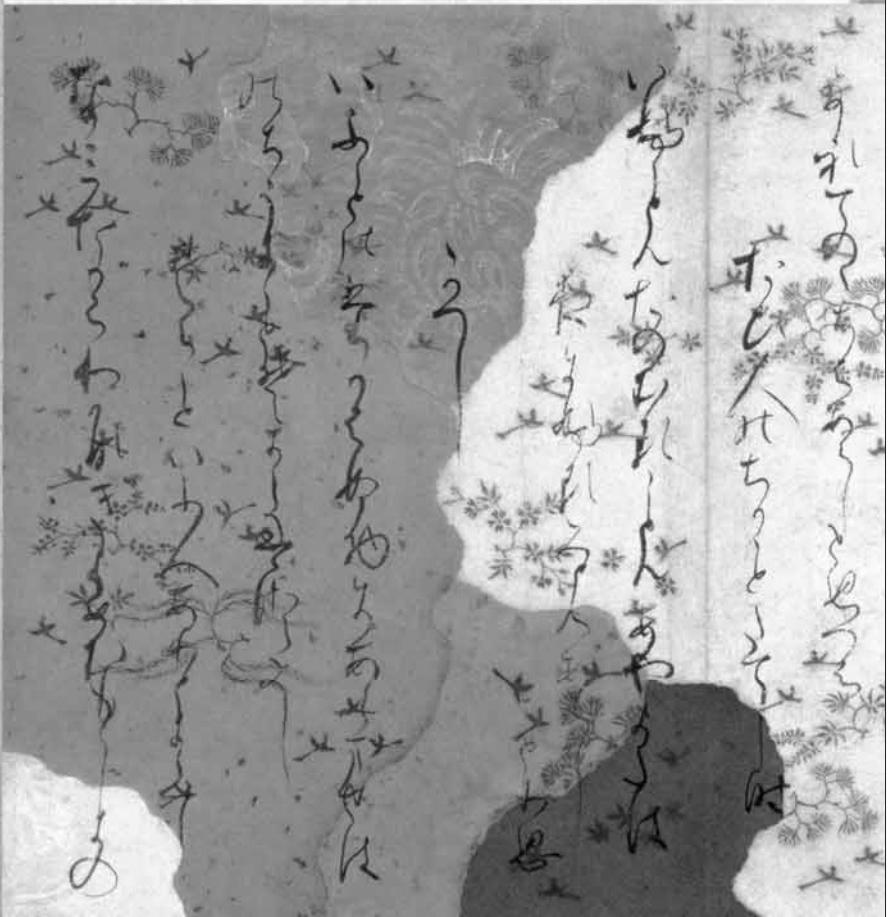
The Aura of Classical Writing:

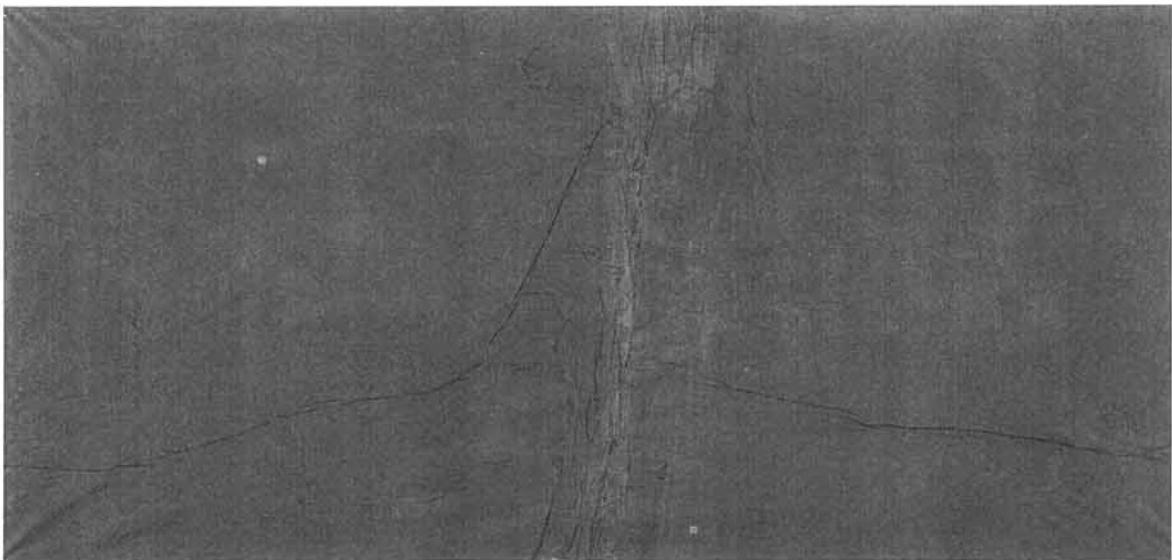
An Exhibition Commemorating the 900th Seminar of the Association for Heian Calligraphy Studies.

24th June through 3rd August, 2025. Closed every Monday (21st July open) and 22nd July.

Museum hours 10:00 A.M. - 5:00 P.M. Five minutes walk from Kamimoge station, Tokyu Ōimachi Line.

The Gotoh Museum | <https://www.gotoh-museum.or.jp/>





名久井裕三「風刻」 平成25年



香川峰雲「水」(篆刻)
昭和35年

收藏優品展

戦後日本

「新しい書」の かたち

2023
6・21 sat - 8・11 mon

成田山書道美術館

〒286-0303 千葉県成田市成田640

Tel 0476-12410774

交 通
JR・京成成田駅下車徒歩25分
またはタクシー

休館日 6月23日、30日
7月7日、14日、22日、28日
開館時間 9時～16時（最終入館は15時半）
入館料 大人 500円
高・大学生 300円
中学生以下無料



Shodo is a form of East Asian calligraphy which emphasizes the expression of the artist's personal style and the performance of the brush through their fluid motion. Shodo is a method of the Japanese art.
[EXHIBITION] 6月21日～8月11日 (火曜休館) 10時～16時 (最終入館は15時半)
[OPENING] 6月21日 (土) 10時～16時 (最終入館は15時半)
[EXHIBITION] 6月21日～8月11日 (火曜休館) 10時～16時 (最終入館は15時半)
[OPENING] 6月21日 (土) 10時～16時 (最終入館は15時半)
[EXHIBITION] 6月21日～8月11日 (火曜休館) 10時～16時 (最終入館は15時半)
[OPENING] 6月21日 (土) 10時～16時 (最終入館は15時半)

書
展

真下京子

近作展に寄せて

杉本敦子

会期＝令和7年4月13日(日)

～18日(金)

会場＝ギャラリーコンセプト21

私の住む北のはずれから、陽光あふ
れる表参道の「真下京子 近作展」

「心音」ひかりを曳きて

に出向いた。日ごろより氏のひたむき
な思考力、表現力に注目している。

ギャラリー正面のウインドーから、

「うぶごえ」の作品が出迎える、一步
会場へ。芯の強い線と幽^{かき}き線が対峙

する静謐な空間、あるか無きかのばか
しが効を奏している。次は次はと心が

動く。一巡一巡又一巡、空間が光の波

を興す、寄せては高まり、静まり、漂

い、渦巻く、心地好い疲れだ。2室目

には凛とした佇まいの小作品と立体作

品。その心憎い配置に心を解き遊ばせ

る。気がつけば他社中の書家の方々、
国外の方も興味津々の目差し。書とは

前衛書とは…深く問いつつギャラリー

を後にした。



落ちつきのある会場風景

第53回 「日本の書展」／2025 東京展 (入場無料)

「現代書壇巨匠」「現代書壇代表」「委嘱」「招待」「秀抜選」の作品を展示

6月12日(木)～6月22日(日) 17日(火)は休館日
午前10時～午後6時

国立新美術館 (1階展示室1A～1D)

◆公募臨書 (東京展併催 1階展示室1D)

前期：6月12日(木)～6月16日(月) 後期：6月18日(水)～6月22日(日)

◆ギャラリートーク

6月14日(土) 午後2時～ 岩井秀樹 (かな)

6月21日(土) 午後2時～ 赤平泰処 (漢字)

主催 公益財団法人全国書美術振興会 後援 文化庁

〈お問い合わせ〉 03-3568-2071 (平日 10:00～17:30／土日祝は休み)

予告

2025・7月号(771)の「古典鑑賞」・「古筆鑑賞」の課題

(8月15日締切)

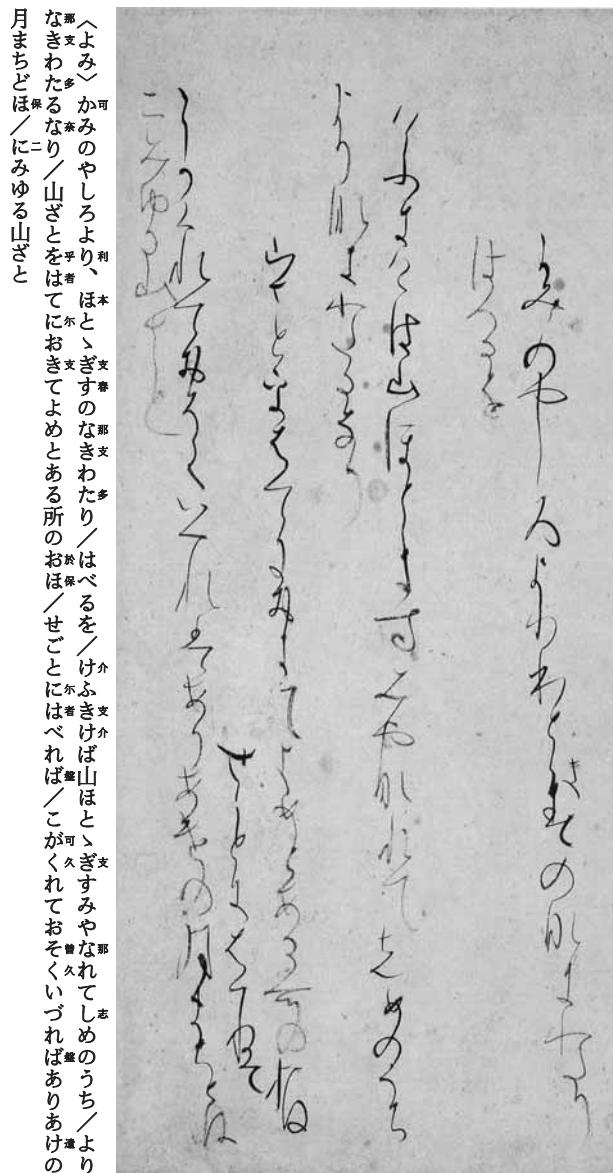
古筆鑑賞

256

古典鑑賞

482

針切／和泉式部続集切（伝 藤原行成筆）①



(掲載図版・70%に縮小)

張遷碑（後漢・186年）①



(掲載図版・50%に縮小)

君諱遷字公方。/
陳留○吾人也。
君之先出自有

特別昇段級試験

一、しめきり日 9月15日(月)

秋季は、作品募集を次のようにいたします。

漢字
かな
漢字条幅
かな条幅
ペン字
かな、漢字条幅の二種は、春季募集となります。

二、応募資格

一人で幾つの部にも応募できる。

第一種

現段級が特級～10級、新規

第二種

現段級が初段～3級

第三種

現段級が準師範～秀級

(優級以下の方は受験できない)

三、課題文字と用紙

(創作文字は新旧
字体どちらも可)

※漢字かな・漢字条幅・かな条幅の臨書作品は、46～51ページの写真掲載の中から【指定文字数】を臨書。

漢字部 半紙＝たて長に使用

第一種 (1枚) 楷臨書 高真碑 (掲載部分から5文字を臨書)

文字を臨書

第二種 (楷・行 計2枚)

楷 創作 密竹使徑 迷 (謝靈運)

(密竹使徑迷わしむ)

楷臨書 雁塔聖教序 (掲載部分から12文字を臨書)

(雁塔聖教序を然に感ふる)

第三種 (楷・行・草計3枚)

楷 創作 行 創作

雁塔聖教序 (掲載部分から12文字を臨書)

(雁塔聖教序を然に感ふる)

楷臨書 来人忘新術

(来人新術を忘れ去子故に惑ふ)

楷臨書 十七帖

(掲載部分から6文字を臨書)

楷臨書 去故蹊 (謝靈運)

(去故蹊を然に感ふる)

楷臨書 半紙＝たて長に使用

楷 創作 かな部

(半紙＝たて長に使用)

楷 創作 家ふたつ戸の口見えて秋の山

(鉢木道彦)

楷 創作 空遠く声あわせ行く小鳥かな

(炭太祐)

楷 創作 山伏の火をきりこぼす花野かな

(志太野坡)

楷 創作 ゆく水の末はさやかにあらはれて

(香川景樹)

楷 創作 川上くらき月のかげかな

(香川景樹)

楷 創作 天つ星道も宿りもありながら

(菅原道真)

楷 創作 空に浮きてても思ほゆるかな

(菅原道真)

楷 創作 関戸本古今集

(半紙1枚に全てを臨書)

楷 創作 (半紙1枚に全てを臨書)

(天つ星道も宿りもありながら)

楷 創作 小画仙紙半切＝たて長に使用

(天つ星道も宿りもありながら)

楷 創作 居常以待終

(謝靈運)

楷 創作 謹居常以待終

(謝靈運)

楷 創作 謹居常以待終

(謝靈運)

楷 創作 謹居常以待終

(謝靈運)

四、名前のかき方

- ◎どの部も落款を入れる。
- 創作は〇〇書、臨書は〇〇臨と書く。
- ただし、かな部・かな条幅部の創作。

臨書いすれも印のみ可。

五、受験料

第一種 一、五〇〇円

第二種 三、〇〇〇円

第三種 四、五〇〇円

△納入は昇段級試験用振替口座、ま

たは現金書留でお願いします。

六、審査結果と昇級

成績に応じて、次の通り昇段級させる。

第一種は、最高秀級まで

第二種は、最高二段まで

第三種は、最高師範まで

△出品品はバーコード出品券を使用

し、9月号(73号)の段級を記入

(昇試出品券を貼付欄に貼る)。

一種は作品の右下に貼る。二種・

三種は1番上のみ、作品の右下

に貼る。

作品2枚以上ある時は、右上を

ホチキスまたはのりでとめる。

团体支部の方へは事務所から応

募書類一式を送付する。

個人で受験希望の方は、はがきで

申し込む。

受験申込み締切は8月21日(木)

・申し込み先

〒101-0031 千代田区東神田1-16-7

東神田ラザビル三階

公益財団法人 書道芸術院

書道芸術編集部特別昇段級試験係

応募書類は9月1日以後に整理

発送。送付された応募書類に必

要事項記入の上、作品に添え応募する。

☆受験申し込みについては52ページ参照のこと

競書出品規定

●規定部(自分の段・級で出品)

*規定部・自由部・研究部は、月別出品券を貼ったバーコード出品券を、作品の右下にヤマトのりで貼る。

*特別研究部は所定の出品券を、作品の右下にヤマトのりで貼る。

*半紙は縦使用に限る。

*落款(印のみも可)を入れる。

●出品資格 高校生以上

●月例競書作品出品の心得

- 1、締切日必着厳守
- 2、月別出品券を貼付していなバーコード出品券は認めない
- 3、月別出品券のコピーは不可
- 4、(1)初めて出品のときは「10級」と書く
(2)課題違反・「落款なし」等の違反作品は審査対象外とし、違反作品として氏名を掲載します。

●研究部(掲載課題の臨書)

※△印作品審査後着

- *段級欄に記入する数字は、級位は算用数字1、2、3…
- 段位は漢数字 初、二、三…
- で書いてください。
- *級位の方は、出品する月の本誌(最新号)で成績を調査確認の上、級を記入してください。確認できないときは、現在級を書き「未調査」と明記してください。
- ・掲載部分以外の箇所は不可。
- ・かな研究部門は料紙使用可。
- ・料紙貼りつけ也可。

部門	用紙	内 容
漢字研究	半紙	文字数自由
かな研究	半紙	歌1首以上を書く、全文も可

●自由部(段・級によらないもの)

部門	用紙	内 容
前衛書	半紙	書体・内容
実用書	半紙	書作

部門	用紙	内 容
前衛書	半紙	創作(書体自由)
実用書	半紙	創作(楷書)

ご連絡等は
月曜日～金曜日 10時～16時の間に
お願ひいたします。(土日・祝日は休み)

○用紙 半紙横1/2(24×16.5cm)、
B5コピー用紙(26×18.1cm)
も可。

○課題 掲載語句を書く。
○小筆、筆ペン、サインペンも可。

●特別研究部
・大作または小品のどちらかに1点出品する。

・詳細は出品票の掲載ページを参考のこと。

送 料

1か月の購読部数が

1部	79円
2部	95円
3部	103円
4部	119円
5部	135円
6部	151円
7部	167円
8部	183円
9部	199円
10部以上は	送料免除

令和七年五月二十五日印刷
令和七年六月一日発行

定価 1部 七五〇円

編集兼
発行人 下 谷 洋 子

アーティスト処理 印刷 小沢写真印刷株式会社

発行所 公益財団法人書道芸術院
101-0031 東京都千代田区東神田1-16-7

電話 (03)3862-1954 FAX (03)3862-1957 振替 00150-4-1350558

ホームページ http://www.lmgs.co.jp/shogei/

◎郵便物・清書・送金・一般事務等は
101-0031 東京都千代田区
東神田1-16-7
東神田プラザビル3階

公益財団法人書道芸術院

電話(03)3862-1954 FAX(03)3862-1957